



SEITOKU

生涯学習研究所だより

Contents

- ◆ 所長挨拶
- ◆ ご案内「アートパーク9 ～にちようびの野望～」
- ◆ 報告 2015年度の研究・実践活動
- ◆ 卒業生の今 part.1
- ◆ 2016年度運営委員・研究員の紹介
- ◆ 最新研究「暗黙知の見える化研究へのお誘い」

VOL.

2

発行／聖徳大学生涯学習研究所
 編集長／長江曜子
 編集支援／有川かおり
 発行月／2016年6月
 〒271-8551 千葉県松戸市松戸1169
 聖徳大学生涯学習社会貢献センター6階
 TEL 047-365-5691 FAX 047-365-5692
 MAIL frontier@seitoku.ac.jp



明日のまっぴら創造する！！～第2回社会教育フォーラム～

所長挨拶



聖徳大学生涯学習研究所は、お陰さまで18周年を迎えることができました。これも、地域、全国、国際的な生涯学習に関するニーズの広がり賜物だと、心から感謝しております。

さて、本年度の生涯学習研究所は、次の3つを柱にして活動をして参ります。

①生涯学習に関する研究:特に力を入れたいのが、テーマ別研究会の活性化です。研究所の8名の研究員による、「子ども」「青少年」「高齢者」等の、地域の課題を掘り下げた、産学官民の連携による実の有る研究会を実施します。

②生涯学習に関するイベントの企画・運営・実施:7月のアートパークや、10月の第3回社会教育フォーラム、12月の第2回ジュニア夢カレッジ(プロから学ぶ子どものキャリア教育)等を予定しています。

③情報の発信:ホームページ、Facebook、生涯学習研究所だより等での情報発信をします。

東京駅からJR上野東京ラインに乗れば、わずか23分で着く、松戸駅東口から徒歩1分の距離にある、聖徳大学生涯学習研究所にぜひお立ち寄りください。お待ちしております。

聖徳大学生涯学習研究所 所長 **長江 曜子**

ご案内「アートパーク9 ～にちようびの野望～」

2008年から産官学民連携で、継続して実施しているアートパークは、今年度で9回目の開催となります。今年度は、「松戸市立中学校美術部有志」のワークショップも加わることになり、さらにパワーアップしたアートパークになる予感！？ 実施の有無や、活動内容等はブログ(<http://artpark.exblog.jp/>)をご確認ください。絵の具等を使用するワークショップも予定しておりますので、汚れても良い服装でご来場下さい。沢山の方のご来場をお待ちしております。

記

日時：2016年7月3日(日) 10:00～15:00
 ※小雨決行、雨天の場合7月17日(日)に延期

場所：松戸中央公園

参加費：無料

事前申込み：不要

対象：松戸市内外の幼児、小学生、親子 以上



前年のアートパークの様子



ホームページ・公式 Facebook のご案内

聖徳大学生涯学習研究所の最新情報は、ホームページ・公式 Facebook にて公開しております。ぜひご覧ください。

<ホームページ> <http://www.tunagari.jp/>

<公式 Facebook> <https://www.facebook.com/seitokusyougai/>

主催事業

【明日のまつどを創造する！！～第2回社会教育フォーラム～】

今回は、「自治会加入率 100%」「大山団地孤独死ゼロ」等を成功させた、東京都立川市大山自治会の佐藤良子前会長をお招きし、孤独死ゼロへの取り組みや、東日本大震災の被災者を受け入れた時の話等をしていただきました。講演後、長江所長との対談を行いました。後半は、「都市型過疎に向けて、これからの地域づくり」と題したワークショップを実施し、松戸の課題を学生や地域の方と共に考えました。



【テーマ別研究会】

社会貢献活動の一環として、大学が有する知的財産ならびに研究成果を広く地域社会に還元し、研究員(本学教員)、専門家および一般市民が多様化する地域課題について、様々な視点から研究をしました。

- | |
|--------------------------------------------------------------------|
| A 「高齢社会支援を考える
—最後まで地域で元気に暮らすために Part.3—
生涯学習研究所長、児童学科教授 長江曜子 |
| B 「アートでまちを面白くする方法」 児童学科教授 大成哲雄 |
| C 「若者とのつきあい方—個人化を逆手にとった育成法—」
文学科教授 西村美東士 |
| D 「安心・安全なまちづくり
—多様な人が集まって住む形を考える—」
総合文化学科教授 袁輪裕子 |
| E 「こどもの冒険遊び場ボランティア養成講座
—子育て応援団・パパ講座 Part3—」
児童学科准教授 神谷明宏 |
| F 「『働く』を考える研究会—子ども・ワカモノ編—」
元 児童学科准教授 齊藤ゆか |
| G 「若者の自立と地域・NPO」 児童学科講師 上田智子 |

テーマ別研究会の成果の一部を紹介します

アートパーク8～みんなバクハツ宣言～

盛夏の空の下、松戸中央公園で「アートパーク8～みんなバクハツ宣言～」を実施しました。これは、テーマ別研究会「アートでまちを面白くする方法」の一部として実施されたアートイベントです。多様なセクターが関わりながら、親子対象のワークショップを企画・実践する中で、地域の課題に目を向け、「学生の社会参画力の育成」と「地域活性化」をはかることを目的としています。今回は、学内9個、学外5個の、計 14 個のワークショップを実施しました。それぞれのワークショップは、本学児童学科と短期大学部保育科の学生・教員が、地域の団体、松戸市と連携して企画・運営を行いました。また今回から、千葉大学大学院木下勇研究室の参画があり、連携の輪がますます広がりました。当日は天候に恵まれ、882 名の子ども達、保護者にご参加いただきました。今後も、子どもと公園を核に、松戸のマンパワーが集結するアートイベントとして継続・発展させていきます。



—アートパーク8に参画した学生の感想—

私にとって3回目の参加になるアートパークでした。1、2年生の頃とは違い、3年生になって初めて主体的にワークショップの内容を考えました。当日は大人の方も多く参加していただき、私達のワークショップでは子どもと一緒にダンボールで作った家に絵の具で塗るという作業を積極的に行っている姿が見られ、とても嬉しかったです。準備や作業も含めみんなで考え、協力し当日まで楽しんで取り組むことが出来ました。

大成ゼミでのアートパークは子どもの成長だけでなく、自分自身の成長を強く感じることができ、とても良い活動だったと思います。

(児童学科 児童文化コース4年 渡辺あてな 記)

ジュニア夢カレッジ～プロから学ぶお仕事体験～

テーマ別研究会『働く』を考える研究会—子ども・ワカモノ編—で、産学官民それぞれの視点から議論した内容を基に、「ジュニア夢カレッジ～プロから学ぶお仕事体験～」を実施しました。この講座は、小学校4年生～6年生、中学生を対象とし、プロの職業人から本気で仕事の「やりがい」「厳しさ」を学ぶことをコンセプトに実施しました。

全部で 20 の職種を用意し、参加者は事前に申し込んだ職業を体験しました。この講座の特徴は、子どもと学生それぞれのキャリア教育を行った点でした。学生が、企画から参画し、全ての職業の打ち合わせの主体者になることで、「見えない学力」が向上するような仕掛けをつくりました。今まで、交渉や調整の経験がなかった学生にとっては、緊張の連続でしたが、講座終了後、学生の確かな成長を感じました。

また、産学官民がそれぞれ知恵を出し合い、参加者の子ども達と学生の成長を後押ししたことの意義が大きかったと思います。体験した子どもたちからは、「自分の夢を広げることができた」等の声が寄せられました。

ご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。



—ジュニア夢カレッジに参画した学生の感想—

私がジュニア夢カレッジを体験して良かったことは2点あります。1点目は、自分の世界が広がったことです。私はどちらかというと自分の世界に閉じこもる方なのですが、自分の限界を決めないで一步踏み出す勇気の大切さを知りました。2点目は、人と関わる楽しさを知ったことです。関わったことのない大人と出会うことで、今までの私には知りえなかった世界と、新しい自分に出会えました。今後、新たなチャレンジをする時、「自分を持ちながら多様な意見を吸い上げることのできる私」に、少しだけ近づけたかなと思います。2016 年度は学生代表になりました。メンバーをまとめながら、私自身も、さらに成長していきたいと思っています。

(児童学科 児童心理コース4年 池田美咲 記)

こどもの冒険遊び場ボランティア養成講座

—子育て応援団・パパ講座 Part 3—

2012 年から継続して実施している、「子育て応援団」「パパ講座」は、3 年目を迎えました。この講座は、地元である松戸市と協働で行っているもので、松戸市内に常設の「冒険子どもの遊び場」開設に向けて、支援者のスキルアップを目的として実施しています。「子育て応援団」は、主にシニア層を、「パパ講座」は、主に子育て中のお父さんたちを対象にしています。今までは、「子育て応援団」と「パパ講座」を別々に実施してきましたが、2015 年度は、一緒に講座を実施し、多様な世代の視点から「子ども」について考えました。5回講座とし、前半2回は講義を中心に、後半3回は「冒険子どもの遊び場」の視察や、計画立案など、より実践に近い内容をとりあげました。5回講座の終了後は、講座修了者有志で「21 世紀の森と広場」の一角をお借りし、プレの「冒険子どもの遊び場」を開設しました。今後も、常設の「冒険子どもの遊び場」開設に向けて研究会を実施していきます。

共催・協力事業

【松戸市学官連携推進講演会】 共催

2015 年度協働のまちづくり講演会「協働は『人』！信頼関係を築き、一歩踏み出す」を共催で開催しました。NPO 法人 CR ファクトリーの五井潤利明氏にご講演いただいた後、パネルディスカッション、ポスターセッション、テーブルトークを行いました。短い時間ではありましたが、参加者は内容の濃い時間を過ごしました。

(主催：松戸市・特定非営利活動法人まつど NPO 協議会)

【とんでも図工室】 協力

ダイエー松戸店で実施した、「とんでも図工室」の開催を協力しました。当日は、本研究所研究員の大成哲雄教授のゼミ生主体で企画した、9つのワークショップ(つながる洋服、でこでこチャリンコ、おかシタウン、巨大ビー玉ころがし ダイエー編、いろいろしいろいろ、フラフープジャングル、でこぼこ映画館 他)を実践しました。2日間で、542 名の親子が訪れ、笑顔いっぱいの時間を過ごしました。

(主催：暮らしの芸術都市、企画：聖徳大学大成ゼミ)

【全国学びとまちづくりフォーラム in 佐野】 協力

栃木県佐野市で開催された「全国学びとまちづくりフォーラム in 佐野」に協力しました。このフォーラムは、全国各地で展開されている、まちづくり活動の実践事例の情報交換を目的に開催されているものです。本研究所は、2012 年度のフォーラム立ち上げ段階から継続して参画しています。

(主催：大会実行委員会、佐野市、佐野市教育委員会)

【ミニまつぶし】 協力

埼玉県松伏町で開催された「ミニまつぶし」に協力しました。「ミニまつぶし」は、18 歳以下の子どもたちが町民になって、ブース(お店)で仕事をし、独自の通貨で給料を得て、その通貨で食事や買い物を楽しめる、「子どもだけ」のまちです。主催である「松伏町文化のまちづくり実行委員会」は、本研究所の長江曜子所長が副委員長をつとめており、「ミニまつぶし」の企画段階から参画しています。

(主催：松伏町文化のまちづくり実行委員会)

卒業生の今 part. 1

生涯学習研究所は、1998 年度の開所以来「学生参画」をメインテーマの1つに据え、実践・研究を進めてまいりました。学生時代に生涯学習研究所の実践・研究に関わった卒業生は、現在何をしていますのでしょうか。シリーズでお届けします。

第1回の「卒業生の今」は、聖徳大学人文学部生涯教育文化学科卒業(2012 年度)の秋戸巴美さんです。現在は、社会教育指導員として、東京都板橋区の社会教育会館に勤務しながら、東京都社会教育指導員会の理事としてもご活躍です。そんな秋戸さんに、社会教育指導員としてのお仕事について伺いました。



■現在の仕事を具体的に教えて下さい

東京都板橋区で、社会教育指導員をしています。社会教育指導員とは、「社会教育の振興をはかるために必要な事項の指導及び助言に関する事務に従事する」専門職のことです。区民のために講座の企画、運営だけでなく、区民の横の繋がりを作るために働きかける支援者になるべく、仕事をしています。現在の職場は、成増社会教育会館というところです。主に「子育て講座」や「青少年対象・参画事業」などを担当しています。

■一押し講座は？

サークルフェスティバルです。「ステージ発表」「カフェ」「子ども向けスペース」など、当館を普段利用している団体さんの文化祭のようなものです。

今年度は区内の小学生から高校生の 130 名ほどがダンスチームとして参加し、今までになかった雰囲気を感じて盛り上がると思います。

実行委員会体制で運営しているため、各団体同士のつながりも生まれ、当館の3大イベントの一つです。

また、10 月からは若者の仲間づくり講座と題して、青少年事業も始まります。ダンスや音楽など、青少年が興味を持ってくれる講座を企画中です。



サークルフェスティバル実行委員の皆様

■今後やっていきたいことは？

中高生がフラッと寄ることができる場を作りたいと思っています。中高生が職員の顔を見に集まってくるような場が目標です。具体的には、今年度、青少年センター「ユースプラザいたばし(仮称)」が開設されることになっているので、青少年に施設を知ってもらうことから始めたいと思っています。

■社会教育指導員として大切にしたいことは？

どの講座でも受講者には、講師から学ぶだけでなく、隣の受講者からの学びを大切にしてほしいと思います。そういった環境づくりの支援をするのが、社会教育指導員であり、社会教育指導員が講座を企画する意味だと思います。

今後も、受講者同士の結びつきを大切に、「社会教育会館の講座に来れば、仲間ができて情報交換ができる」と思ってもらえる講座を企画していきたいと思っています。

■聖徳大学での学びとキャリア形成

聖徳大学での学びは、今の私の仕事全てに役立っています。特に、学生時代に生涯教育文化学科と生涯学習研究所がコラボレーションして実施した、「アートパーク」「おしごとデパート」「松戸まつり」等、産学官民連携事業の経験が活かしていると感じています。先生や研究所の方々が学生を信頼し、企画を任せてくれ、必要に応じて的確なアドバイスをいただいたことは、大変貴重な経験でした。また、イベントを通して、市民や地元企業の方々とお話しする機会を得たことも、良い経験であったと思います。教室の中だけでは学ぶことが難しい、「社会に出て本当に必要な能力」を得た学生時代でした。

社会教育指導員は東京都 23 区でも採用枠が少ない状況ですが、若者の視点で事業を作る際に、学生時代の経験が活かされています。

■生涯学習への期待を教えてください

「生涯学習＝高齢者の学び」というイメージが強いこと、そもそも生涯学習という言葉知らない人も多いと思います。好きだからやっている趣味や、仕事のスキルアップのための学びが、実は生涯学習なのだということを、もっと多くの人が知り、学ぶことを楽しんでほしいと思います。

(有川かおり 記)



2016年度の研究員・事務局は、多様な専門分野をもつ、下記の10名となりました。各々の専門分野を活かしたテーマ別研究会、産学官民連携事業等の実施、研究紀要の発行を通し、生涯学習社会実現に向けての実践・研究を推進していきます。

氏名	所属・職位	専門分野
長江 曜子	所長・研究員 児童学科 教授、聖徳大学オープン・アカデミー 校長	・少子高齢社会研究 ・日本近代文学 ・葬送文化研究
大成 哲雄	研究員 児童学科 教授	・美術教育
西村 美東士	研究員 文学科 教授	・社会教育 ・青年教育 ・暗黙知教材の開発 ・子育てのまちづくり
蓑輪 裕子	研究員 総合文化学科 教授	・建築計画 ・住居学
神谷 明宏	研究員 児童学科 准教授	・グループワーク ・野外教育活動
川口 一美	研究員 社会福祉学科 准教授	・社会学 ・老人問題 ・生きがい
上田 智子	研究員 児童学科 講師	・教育社会学
佐藤 可奈	研究員 社会福祉学科 講師	・老年学 ・高齢者福祉
有川 かおり	事務局 生涯学習研究所 助手	・生涯教育 ・青少年教育 ・社会デザイン
谷 由美子	事務局 生涯学習研究所 非常勤職員	-

最新研究「暗黙知の見える化研究へのお誘い」 聖徳大学文学科教授（本研究員）西村美東士

暗黙知の構造

われわれの研究では、暗黙知の構造を図1のような氷山モデルでとらえている(本図は若者の社会化支援者の例である)。最後まで言語化、形式知化できない深層の暗黙知は興味深いところである。だが、子育て者、若者、職業人等の幸福追求の一環としての学びの要求に応えるためには、問題解決のための科学的なアプローチによって、第3層までの形式知化を進めることが、研究者としての急務であると考えている。ただし、第4層といえども、心身の体験学習によって能力達成はできる可能性はあり、教育実践としては追求が期待される場所である。そのような開発的実践との往復活動により、暗黙知研究は進展するものと思われる。

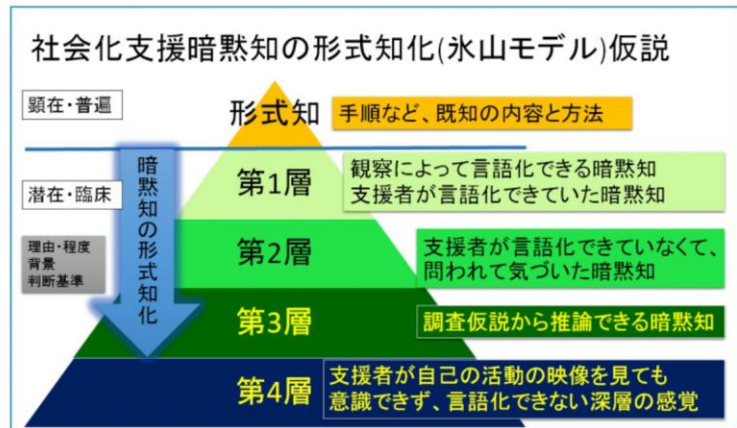


図1 社会化支援暗黙知の形式知化（氷山モデル）仮説

子育て暗黙知の可視化

2005年度文部科学省選定聖徳大学社会連携研究推進事業「連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究」では、技術・技能教育研究所長森和夫氏の指導を得て、図2のような教材を作成した。

人形の扱い 解説

- 1歳児くらいだと自分の感情に行動がついて行けないことがあります。こうしたいと思ってもそのようにできません。
- 人形は人と同じに解釈しているのだけれど、どうもそのように反応がないので、物足りなく思うことがあります。
- 箱でとかしてあげようとしているので優しいところもあります。
- 箱の中から物を出してしまっているのは、この年齢ではよく見られることです。




図2 暗黙知教材「子育て支援のポイント」より

子どもの「やんちゃな活動」の動画を見せ、「あなたならどうする」と考えさせたあとに、ベテランの保育士がそれをどう理解し、どう対応したかを示す。このような学び方は、親だけでなく、保育を専門に学ぶ学生のための実習前教育などにも効果的だと考える。


セールス等の暗黙知の可視化

これまでの大学は、自己と職業とのマッチングを考えさせることなどはやってきた。だが、実際の仕事の仕方を教えるのは、就職先も多様であることから、ほとんど不可能と思われてきたようだ。そして、学生は「学校という群れから離れて社会に一匹で飛び出した」とき、仕事の手順だけ教わり、あとの多くは「カン・コツは見て盗め」と言って突き放される。

われわれは、2014年度から放送大学教育振興会助成研究「キャリア教育のための暗黙知教材の開発」を進めてきた。そこでは、ICTシステムを活用して、下図のようにベテランの「カン・コツ」を考えさせる。このことによって、今日の個人化する若者たちも、ベテランの活動を共感的、臨床的にとらえ、「なぜ、どのように、どんな基準で」と問いを発して、帰納的に特殊解を見出すことができるようになる。形式知の一般解からの演繹的な学修だけでは、職業へのこのような主体的な構えを身につけさせるのは難しいだろう。車検の満了日を見ることは手順書には書かれていても、お客様に関する推察力という豊かな経験値は、図3に示したような動画による技能分析表によらないと理解できないのである。

ご来場者への対応をする

あなただったら、来場されるお客様の何を見て、何を判断しますか。
日差しも強くないのにサングラスをかけているお客様が来場された場合は、どのように対応しますか。
自分の見方・考え方をまとめてから、クリックし、ベテランの答えを読んでください。



主な手順	No.	具体的な行動の仕方	ポイント・判断基準
1挨拶をする。	1-1	「いらっしゃいませ」	お客様より先に言う。
	1-2	現在所有する車が、どういう状況にあるかを把握する。そのため、来店されたときの車の車種は何か、車検の満了日(フロントガラスに貼ってある)はいつかを見る。	じろじろ見ずにさりげなく、瞬間的に情報を得るように心がける。
	1-3	第一印象でお客様についての推測はするが、先入観はもたないようにする。	判断していることはありますが、服貌、アクション、第一印象など確かめていることは何ですか。 日差しが強くないのにサングラスをかけているお客様の場合、直接グイグイ来られるのを嫌っているかもという推測はするが、基本的にはニュートラルな心構えで、お客様に平等に接する。

図3 暗黙知教材「外車販売のポイント」より

このほか、今年度からは、科研費研究「個人化する若者に対する社会化支援における暗黙知の解明」を始めた。ときの政策のプレの陰で埋もれていく若者支援のベテランたちの「カンとコツ」の蓄積を、広く関係者の財産にしていきたい。

研究者だけでなく、子育て者、支援者、企業、学生などの幅広い協力を得て、ベテラン人材の発見、職業人像や課題の整理、必要能力の構造化、動画収録、暗黙知インタビュー、技能分析表の作成と教材化、実践による検証の面でコラボを進めていきたい。